

## 私の留学生活

ふと思い返せば、日本に来てもう一年経ちました。

この一年に、いろいろなことを経験して、いろいろな人と出会って来ました。

この短いような長いような一年間は、今までの人生で一番有意義の時期だったと思います。

一年前の私は、まだ日本語をろくに話せない大学三年生で、一人で日本にきました。

日本に来た初日、関西空港で唐先生に「先生、怖いです。私は日本人が何を言っているのかわからないし、日本人は私が何を言っているのかも理解できない。どうしよう。」とメッセージを送ったことを今でも覚えています。もちろん、一年後の自分が留学の学習成果を話すとは思わなかったでしょう。不思議な一年でした。学習成果といっても、留学は私にとって、ただテキストの勉強だけではありませんでした。もっといろんな方面で私を変えたのです。

第一に、日本語だけの環境で日本語を前よりずっと話せるようになりました。中国で勉強していた時、日本語は話すより、読んだり、書いたりすることが多くて、なかなか口に出すことはできませんでした。日本に来て、毎日生の日本語を聞くうちに、少しずつ話せるようになりました。活水での初めての授業後、全然わからなかったので、和田先生に「先生、翻訳アプリの対話翻訳機能を使って授業を受けてもいいですか？」と聞いてみた私は、今のようにスムーズに授業を受けられるとは思いませんでした。

第二に、日本の生活や文化が前よりずっと分かるようになりました。長崎、大阪、東京、このような名前は留学する前の私にとって、ただの地名でしたが、日本に来てから、行く事によって、音も色もあるところとなりました。電車のこと、日本の飲食の事も、いろいろわかるようになりました。もう一つは、以前体験したことない日本文化に触れることができたことです。日本舞踊を習ったり、生け花を体験したり、学校の弓道部に入ったりしました。日本文化を肌で感じることができました。これは何よりも嬉しいことです。

最後に、たくさんの人々と出会って、視野を広げました。中国にいた時も、友達が少なくなかったですが、それはクラスメートや親戚にすぎませんでした。一人で長崎に来て、知り合いが一人もいなかったのも、周りの人も結構変わりました。留学生同士、バイトする仲間、偶然に出会った人々が私の生活に入ってきて、私をずっと支えてくれました。学校の先生たちもいつも心から温かく助けてくれて、ありがたく思います。交流イベントで知り合った方に、家に遊びに誘われたり、日本料理を教えてもらったりしました。この方は、母のようにお世話をしてくれました。活水で知り合った日本人の友達に家に招かれ、彼女の家族と夕食を食べたこともありました。留学生の友達と一緒に旅行に行ったり、ごちそうを作ったりして、家族のようになりました。忘れられない素晴らしい一年でした。

留学生活はもうすぐ終わりますが、この一年の事が大切な経験となって、今後の生活にも役立つのでしょうか。日本について、まだ分からないことばかりですが、これからはがんばって日本の文化を理解して、日本語をもっと勉強したいと思います。最後に、再びお世話になった先生たちと日本で出会った人々にお礼を言いたいと思います。

本当にありがとうございました。

留学生代表 湖北大学 郭 双琇